

昭和十五年十月十日

高森部隊特殊慰安業務規定

高森部隊

0376

高森部隊警備地区内地方商人ノ
營業ニ関スル規定

第一 本規定ハ當隊警備地区内ニ地方商人ノ營業ニ関スル
件ヲ規定シ將兵殺伐ノ氣風ヲ緩和調制シ以テ軍紀ヲ確
立セシムルヲ以テ目的トス

從テテ聯隊ノ幹部タルモノハ何人ト雖モ本規定ヲ犯サシメ
ザル如ク嚴ニ指導監督スルヲ要ス

第二 地方商人ノ營業ヲ許可シ得ルハ左ノ各項ニ該當スル者
ニ限ル

領事館若クハ憲兵隊ノ身元證明書ヲ有スル者ニシテ軍
司令官 兵站司令官 全輸送司令官若クハ兵團長ノ囊
西地区通行許可證其他兵團長ノ居住許可證 營業
許可證ヲ有スルモノ

第三 地方商人ノ營業別及其範圍ハ七ノ標準ニ依リ之ヲ

許可ス

1. 慰安所

慰安婦ハ皇軍一〇〇名ニ對シ一名ノ割合

慰安所ノ業經營者ハ 三名

2. 飲食店經營者ハ 四名

3. 寫眞屋 二名

4. 時計屋 一名

5. 營業場所ハ聯大隊本部附近ニ限ル

6. 營業主ノ使用人ハ身元確實ナル者ニシテ常ニ清潔ナ

ルヲ要ス

7. 飲食店ノ女給ハ各營業主ニ三名ヲ標準トス

8. 營業主ノ使用人 慰安婦 女給共ニ別紙様式ニ依リ

履歴書ヲ警備隊長ニ提出スルモノトス

昭和十六年三月奉送稿

0378

第四 營業關係者（使甲人、慰安婦、世話共）ノ散步行動

区域ハ別紙附圖ノ範圍トス

第五 營業者ノ監督指導検査ノ爲別表ノ通り役員ヲ

任命ス

第六 營業者ノ人員荷物其他一切ノ運搬ハ各自營業者ニ

於テ實施シ其ノ經費ハ一切營業者ノ負擔トス

又營業者ノ施設ニ要スル諸材料物資ノ購入等ニ関シテハ

宣撫班ヲ通シ購入スルモノトス

第七 宣撫班ハ如上ノ請材料物資等ノ購入ヲ營業者ヨリ願

出テタルトスハ維持會ヲ通シ便宜ヲ取リ計フモノトス

第八 營業者ハ役員ノ指導監督検査ヲ受ケ之ニ絶對

服従スルコトヲ如シ

ノ營業者同家族使用人夫、女給ハ毎月十五日ノ公休日午

後ハ軍醫ノ健康診断ヲ受ケルモノトス

0379

又慰安婦ハ毎月一日十日二十日午前八時ヲ軍醫ノ健

康診断及検査ヲ受クルモノトス

第凡軍醫ハ右診断及検査ノ結果ヲ警備隊長ニ報

告スルト共ニ本人及營業主ニ通報ス

又病人ニ對シテハ適宜ノ方法ヲ以テ治療ヲ行フモノトス

第一〇營業者ハ不合格者アリタルトキハ之ヲ一室ニ纏メ接

客ヲ禁セシメ自室ニ標示スルモノトス

第一一飲食店營業者ハ食中毒防止ノ為毎日其日ノ

飲食物ノ少量ヲ醫務室ニ提出スルモノトス

醫務室ハ右検査物ヲ二十四時間保管シ置クモノトス

第一二公休日及清潔法

各營業者ハ右者ニ毎月十五日ヲ以テ公休日トシ營業ヲ

中止シ居住地内外ノ清潔法ヲ実施シ軍醫ノ査核

ヲ受クルモノトス

昭和十六年三月奉監精

0380

第一三 営業者ハ毎月ノ賣上高ヲ別紙様式ニ依リ翌月五日

迄ニ警備隊長ニ報告スルモノトス

第一四 慰安所ヲ利用セシトスル下士官以下ハ左ノ各項ヲ嚴

守スベシ

1. 慰安所利用許可證ヲ携行シシ券ヲ購入スル際現金ト

共ニ営業者ニ差出スモノトス

右許可證ハ聯隊本部ニ於テ發行ス

2. 慰安所内ニ於テハ飲食スルヲ得ス又飲食物ヲ携行

スルヲ得ス

3. 慰安婦及営業者ニ對シ粗暴ノ言動ヲ禁ズ

4. 利用時間ヲ嚴守シ他人ニ迷惑ヲカクヘカラス

5. 営業者其ノ他慰安婦ニ對スル一切ノ貸借關係

ヲ嚴禁ス

第一五 慰安所ヲ利用シ得ル毎日ノ時間左ノ如シ

0381

兵ハ	一〇〇〇ヨリ	一七〇〇迄
下士官	一七〇〇ヨリ	二二〇〇迄
准士官以上	成可ク	二二〇〇ヨリ
第一大懸安所ノ料金ヲ當分ノ間左ノ如ク定ム	三十分	一時間
兵	一用〇〇	二用〇〇
下士官	一、二〇	二、四〇
准士官以上	—	三、〇〇 二十四時以降一〇、〇〇
備考	一、千ツノ等ハ一切交付セサルモノトス	
	又、サツクハ營業業者ノ負擔トス	
	三、皇軍以外ノ者ハ接客ヲ四嚴禁ス	
第一七	各隊ノ利用日配當別紙ノ如シ	
但シ公休日ニ當リタル場合ハ利用ヲ禁ズ		

昭和十六、三奉監納

0382

陸軍

第一八、飲食店ノ営業時間左如シ

毎日一〇〇〇ヨリ二四〇〇迄トス

公休日其他営業関係者ノ健康診断等慰安所ニ

準ス

第一九、営業者ハ特ニ懇切トシテ常ニ清潔ニ注意シ諸

條項ヲ嚴主スルベト

若シ諸條項ヲ守ラサルトキハ営業ヲ停止シ或ハ退去ヲ

命ス

其他不明事項アルトキハ役員ニ申出テ決裁ヲ受クルニ

トス

第二〇、営業開始ハ十月十三日ヨリ許可ス

昭和十五年十月十日

警備隊長 高森大佐

0383

附表二

地方営業者居住地附近ノ教養所及

軍紀風紀ノ取締規定

一 本勤務ニ服スルモノハ隊本部日直士官ノ区處ヲ受ケ

敵匪及土民等ヲ近寄ラシムルコト

其ノ他軍紀風紀ノ取締ニ任スルモノトス

二 編成及勤務期間其ノ他

長 下士官 一

歩哨掛 一 兵 六

勤務時間ハ毎日〇九ヨリ翌朝起床時限迄トシ

同時任務解除トス

三 各隊ハ大区区分ニヨリ前項勤務者ヲ差出スモノトス

陸軍

附表三

各隊利用日配當表

部	隊	本部	石	利	甲	日	(曜)
聯隊	本部	土	土				
第一大隊	本部(除大行李)	土					
第一中隊		日					
第二中隊		月					
第三中隊		火					
第一大隊	隊列	水					
第一大隊	行李	井木					
第二大隊	本部(除大行李)	土					
第四中隊		火					
第五中隊		日					
第六中隊		日					
第二大隊	隊列	水					
第二大隊	行李	木					
聯隊	隊列	金					
備考	一 毎月十五日、公休日ニ當リテ本部隊(利用ヲ中)止スルノトス						

0387

昭和十六、三、三、三、三

附表第四

營業主名

第一魁安所

飲食店

寫真屋

弘原榮

崔金石

藤川寶義

陸軍

0388

附表 五

第何慰安所 何月分賣上高報告

年 月 日

營業並

何

某

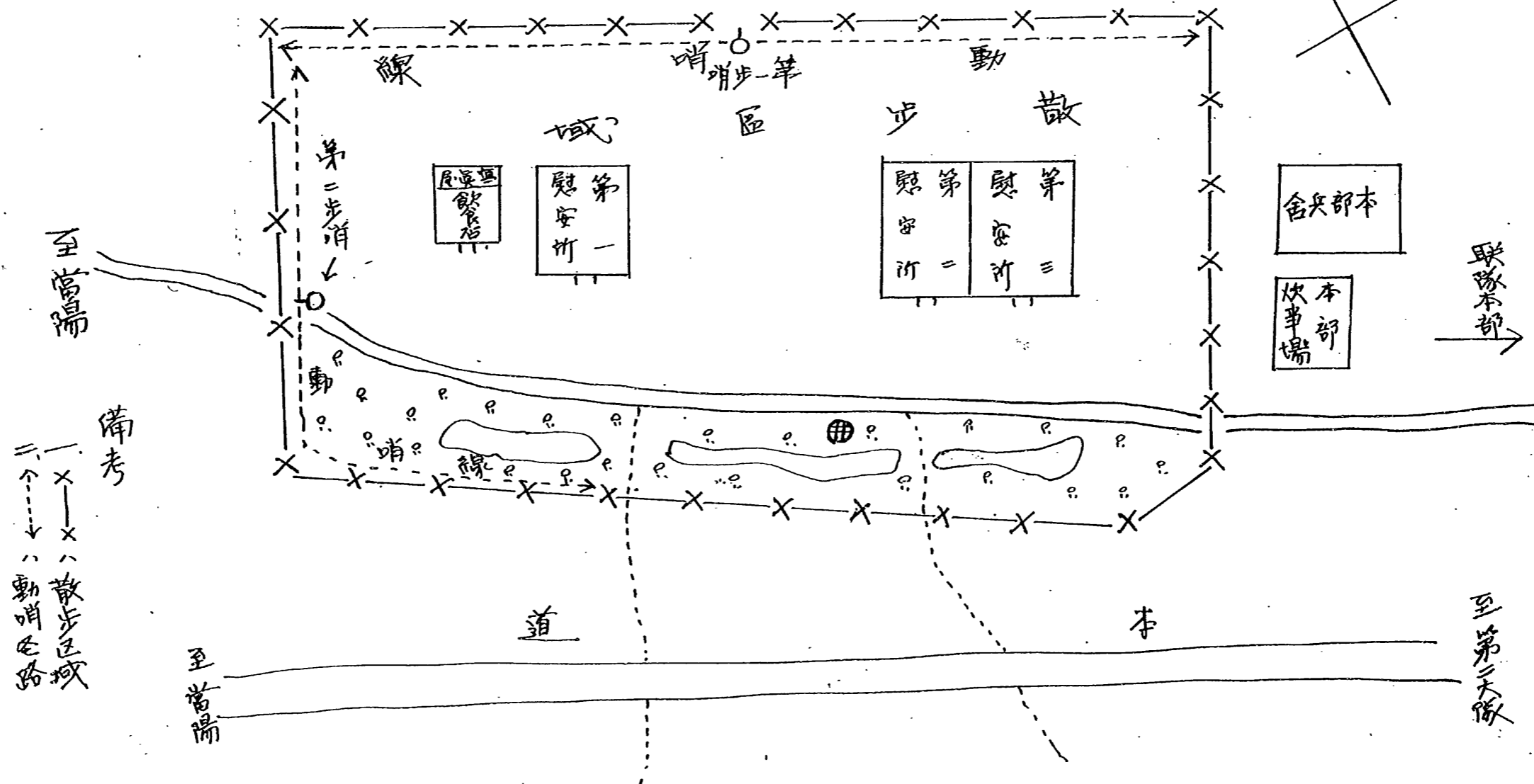
(印)

何某	何某	藝名	人員	准管以上	下士官	兵	合計
		人員	賣上高	人員			
一	三						
一〇〇〇	九〇〇						
七	五						
四五〇	七五〇						
五	六						
五〇〇	六〇〇						
一九五〇	二二五〇						

昭和十六、三、奉發精

0389

地方商人營業者區域要圖



0390

十月十三日

晴

阿家洲

當陽東南地區に於て發言備に任ズ

一回の別紙日日命令下達ス

聯隊長の化學戰教育、爲當陽西北方枯嶺

山演習場へ出張

0392

十一月十四日
晴午前
雨午後

常陽東南方地極ニ於テ敬言備ニ任ズ

一四〇〇別紙日曰命令下達ス

朕隊長ハ此學戰教育ノ爲常陽西北方枯山嶺

小演習場ハ本場

大坂・富崎納

0393

陸軍

曰曰命令 十月十三日

陸軍曹長 提 光 春

一 機密書類、返納受領其他事務連絡、為明

後十五日ヨリ七日、予定ヲ以テ漢口及葛店ニ出張ヲ命ズ

三 陸軍曹長 河野 栄

同 軍曹 宮脇 國史

同 同 吉塚 悟

同 同 堤 虎雄

被叙勳八等授瑞宝章 (八月十六日附)

三 陸軍軍曹 梶 右 直正

同 同 石原 清治

同 同 奈須 道春

被叙勳八等授瑞宝章 (九月十日附)

四 第一大隊ハ左記ノ通ニ明十四日ヨリ九日ニ占ニ兵団

0394

特別教育場 = 長生池知中尉、指揮ヲ受ケシムベシ

左記

1. 將校ノ指揮スル定左一個分隊

2. 觀測 觀下一觀測平四副遠機一砲隊鏡一

3. 通信 通下一通信平三電話機一電話線一卷

4. 其他 田越三十字鉄三

會報

一、保管兵器検査所見ヲ各隊一部宛配布ス

昭和十六年三月奉監納

0395

陸軍

日々 命令

一 来ル十月一日初年兵到着、翌々日(十九日)ヨリ聯隊合同慰靈祭及感状授與式並内地歸還者ニ對ス本職、訓示ヲ行フ依テ左ノ通リ心得ベシ

ノ順序

合同慰靈祭ノ感状授與式ノ訓示

一三〇〇ヨリ箇力大會ヲ實現施ス

2. 集合隊形及部隊指揮

各隊ハ當日ヨリ九ニ〇占ニ祭場ニ集合其、隊形ハ聯隊

副官ヲ以テ指示セシム

聯隊、指揮官ハ當地ヨリ左トス

3. 服装進士官以上軍靴、軍装トシ略授佩用、下士官

以下巻脚絆帶劍ノミトス

三 委員長

内藤少佐

0396

委 員	駐隊副官
"	福田中尉
"	竹條崎少尉
"	其他各本部各隊ヨリ將校一名宛
"	助平本部各隊ヨリ下士官一名宛
各頭書、通合同慰靈祭施行委員及司助平ヲ命ス	
三合同慰靈祭終了後(一)四(ト)隊定ス(二)合般授与セラレ	
タル感状授与式ヲ施行ス	
依テ左ノ通り心得ニシ	
集合及隊形	
駐隊ハ宮地ヲ依リ指揮ヲ以テ一〇三〇迄ニ東面ニ集合ス	
スベシ其ノ隊形ハ	
四感状授與式ニ引續キ乃地歸還者ニ対スル本職ノ訓示ヲ行フ左ノ通り心得ニシ	

昭和十六、三、奉還納

0397

1. 實施順序

(1) 内地歸還者，申告

内地歸還者中，先任者ハ一同代表ニ申告ヲ行フ

(2) 訓示

代表，挨拶

2. 隊形

(1) 内地歸還者ハ淺田中尉，指揮ヲ以テ第一線ニ

整列スルヲ要ス

(2) 其他ハ第一線ニ整列シ當地方官，指揮ヲ受ケベシ

其他細部ニ関シテハ隊副ニ官ラレテ区別者セリ

當日一飯ニ晝食ヲ携行スベシ

五 陸軍 軍曹 白木 系 稔

同 菅川 金 定 雄

同 後藤 保

十月五日

雨

羅家洲

當陽東南方地区ニ於テ敬言備ニ在ズ

一回ヨリ別紙ヨリ命令下達ス

隊隊長ハ化鎗子戰教育ノ爲當陽西北方粘

山崗山演習場へ出場ス

0400

十月十五日
晴曇
罗家洲

嵩陽東南方地區ニ於テ敬言備ニ任ス
一回口口別紙曰日命令ラ下達ス
聯隊長ハ化學戰教育ノ爲嵩陽西北方粘崗
山演習場ニ出場ス

大坂・宮崎納

0401

右内地歸還將校ノ護衛トシテ明十五日ヨリ六泊ノ
予定ヲ以テ冀クハ出張ヲ命ズ

陸
軍

0402

陸軍

曰々 命令

十月十五日

一 來ル十月十九日 藍嶋兵團ニ於テ施行セラル、軍隊
教育普及 教育專習員トシテ左記ノ通出 席ヲ命ス

左記

西大隊長 聯隊 校列長

各中隊長 各大隊 校列長

一 第一線 配屬中隊長ハ各配屬部隊長ノ認可ヲ

受ケ出席スベシ

二 藍嶋兵團ニ於テ下士官以下ノ外出 期限ヲ制定セラレ

タルニ依リ 聯隊ノ外出 期限ヲ左記ノ通リ改ム

下士官ハ 一九〇〇 占

兵 一七〇〇 占

三 慰安業務規定 第五ノ利用 時間ヲ左ノ如ク變

更ス

0404

日々命令

十月十六日

陸軍

天皇陛下ニハ十月十八日十時十五分靖國神社ニ
御親拜遊サレ依ッテ各隊ハ同時刻ヲ期シ適宜
送拜式ヲ舉行スベシ

0406

十月十七日

曇 午前

晴 午後

四ノ家洲

當陽東南方地區ニ於テ警戒備ニ任ズ

當陽野戰倉庫ヨリ糧秣五日分ヲ支領ス

騎隊長ハ化鴉子戰教習ノ爲當陽西北方枯

嶺小演習場ニ出場本日ヲ以テ集合教習月ヲ終

了又

十月十八日

曇

時々小雨

四ノ家洲

當陽東南方地區ニ於テ警戒備ニ任ズ

一四〇〇別紙日命令ヲ下達ス

當嶋兵團視察ノ總參謀長出迎ノ爲自

動車ニテ騎隊長兵團本部へ出頭ス

一四〇〇別紙騎隊長命令ヲ下達ス

十月十九日

雲

羅家洲

當陽東南方地區ニ於テ敬言備ニ任ズ

四〇〇別紙日々命令ヲ下達ス

聯隊長ハ軍隊教育令普及教育ヲ爲シ

皇兵團本部ニ出頭ス

大改・富貴清

0409

陸軍

日々命令

五、一〇、六

一 陸軍主計中尉

福田秀行

右内地飯還者輸送業務経理官トシテ内地

出張ヲ命ス依ッテ飯還者ト同行シ任務終了後飛行

便ニ依リ速カニ飯還スベシ

二 陸軍少尉

内田奉太郎

右内地飯還者ト同行シ或田中尉ノ業務ヲ補助

スベシ

三 陸軍曹長

河野 崇

豫備役編入ヲ命ズ

四 明治十九日ヨリ聯隊酒保ヲ開設ス依ッテ各隊ヨリ左記

ノ通り人員ヲ差出シ福田中尉ノ届署ヲ受ケン

ベシ

0410

陸軍

獨山三作命第一三一號

聯隊命令

十月十八日 四〇〇

第一大隊長ハ成ルベク速カニ有園地區隊ニ配屬

中ノ一小隊ヲ他中隊ト交代セシムベシ

ニ予ハ四維家州聯隊本部ニ在リ

聯隊長 高木 大佐

ト違法豫メ要旨傳達シタル後印刷配付

0412

陸軍

日々命令

十月十九日

陸軍主計中尉

福田秀行

護衛兵

二名

右前渡資金受領其他經理事務連絡及葛香警備
地区残留者俸給支給為明後二十一日ヨリ之泊七日予定
ヲ以テ漢口及葛香ニ出張ヲ命ス

二事務連絡、夕メ左、通、出張ヲ命ス

一大隊本部

陸軍上等兵

一田徳

第一中隊

右中

上田美義

聯隊校列

陸軍軍曹

本村本弥八

0414

陣中日誌用紙

陸軍

十月二十日

雨

罗家洲

當陽東南方地区ニ於テ警戒備ニ任ズ

一四〇〇別紙命令ヲ下達ス

十月第三旬警戒備旬報別紙、如シ

0416

十月二十一日
雨
羅家洲

南陽東南方地ニ於テ敬言備ニ任ス

一回ヨリ別紙日伺命令ヲ下達ス

聯隊長ハハルハ本部ニ發シ下士官兵ニ名

第四中隊ノ陣地ヲ視察ス兵團ヨリ參謀司

行ニ七五ノ歸隊ス

三月葛香ニ於テ入隊ニ向也ニ在リテ教育中ナリシ

初年兵教育者六百八十二名一六〇〇到着ス

大坂・宮崎納

0417

陸軍

日 日 命 令

一五、一〇、二〇

陸軍中尉

松尾 三郎

陸軍主計中尉

内田 芳雄

賜 一 等 給

九月三十日附

陸軍軍醫中尉

河野 基保

右来 十月二十九日兵團高級醫官會同ニ岁席ヲ

命ス 依テ 別紙通牒、通ル心得ベシ

三 陸軍軍曹 大友 國三郎

任 陸軍軍曹長

十月一日附

陸軍主計軍曹

田中 緒織

任 陸軍主計曹長

十月一日附

0418

